



「文学を旅する地質学」

蟹澤聰史著

A5版 上製 180頁

ISBN978-4-7722-7101-1 C1044

古今書院

この度、東北大学名誉教授の蟹澤聰史氏により、表記の単行本が上梓されました。この本は、地質に造詣の深かった作家の文学作品を取り上げて、地質学者の目から地質学的解説を加えたエッセイ集です。「文学を旅する地質学」というタイトルは、文学好きでなくとも、旅することが好きな人にとっては魅力的です。文学好きであれば、たまらないこと請け合いです。この本は、産業技術総合研究所 地質調査総合センターで編集している「地質ニュース」に7回に亘って連載された記事を、一般読者に理解しやすいように編集し直して、2007年9月に古今書院から刊行されたものです。本書はそれぞれ独立した8章から構成されています。その概要は以下の通りです。

第1章：スタイベック「怒りの葡萄」とルート66

本章では、怒りの葡萄で描かれているジョード一家がたどったルート66（シカゴからロスアンゼルスまで）の地質学的な背景を紹介しています。それらはリオグランデリフト、ロッキー山脈、コロラド高原、グランドキャニオン、モニュメントバレー、ナバホ火山群、ベズンアンドレインジの地域です。これらの地域の複雑な地質構造・火山活動は、ファラロンプレートが水平に沈み込んでいるためと考えられています。蟹澤氏は「怒りの葡萄」の構成が旧約聖書の「出エジプト記」を基にしていることや、本作品が人間による生態系の破壊への警鐘を意図したものであることも言及しています。

第2章：ゲーテの「ファウスト」と花崗岩の成因， 「イタリア紀行」における地質学的観察

本章では、ゲーテが地質学や鉱物学の専門家であったことを詳しく述べています。ゲーテは水成論を唱



えたヴェルナーの影響を強く受けるとともに、ワイマール公国の地質の専門家として地質学に関する論文を多数残しています。それらは、「イルメナウ鉱山再開記念演説などの鉱山に関する報告集」、「花崗岩について」、「玄武岩の生成に関する火成論者と水成論者の和解案」、「全地質生成の基盤としての花崗岩」、「岩石の成層の理論のために」などです。またゲーテは「ファウスト」のなかで水成論と火成論について論ずるとともに、地質学に基づいた思索的な記述を多数行っています。「イタリア紀行」ではアルプスを越え、ヴェスヴィオ火山に登るなどの経験を基に、イタリアの地質について詳しく記述しています。蟹澤氏自身も、イタリア中南部やハンガリー・チェコ・オーストリア・ドイツ東部を回って、ゲーテの足跡を辿っています。

第3章：宮澤賢治の「春と修羅」とノヴァーリス 「青い花」に共通するもの

蟹澤氏は、まず宮澤賢治の地質や岩石鉱物にかかわる作品として、「十力の金剛石」、「樺ノ木大学士の野宿」、「グリコーブドリの伝記」をあげた後、「春の修羅」に出てくる地質に関して詳細に記述しています。宮澤賢治の地質に対する専門的な知識や観察眼には驚くばかりです。蟹澤氏は北上山地の岩石について長年研究してきましたので、宮澤賢治の記載につい

て最新の知見からの明快な解釈を与えています。それらは岩手火山、北上山地の遠野盆地、種山高原、早池峰山などに関するものです。一方、ノヴァーリスはドイツロマン主義を代表する詩人で、ゲーテ同様、水成論を唱えたヴェルナーの影響を強く受けました。宮澤賢治もノヴァーリスも、どちらも地質学を修めた自然科学者であるとともに、文学、歴史、宗教に深い関心を持った詩人でした。

第4章：漢詩をととして見た中国の地質

本章では、まず黄土の分布と成因について紹介しています。次いで、蟹澤氏自身が現地調査を行った内モンゴルとモンゴルの中朝地塊、シベリア台地の衝突部の地質を紹介しています。その後、蟹澤氏は西安にも訪れて、そこを舞台に作られた漢詩を紹介しています。その多くは高校の授業で習った有名なものです。次いで江西省廬山、西域の火焰山に関する漢詩を紹介しています。

第5章：魯迅と地質学の接点を探る

本章で紹介される魯迅もまた、若い時に地質学を勉強しました。23歳の頃に「中国地質略論」を書いています。この執筆の背景には、日本を含めた西洋列国の中国侵略に対する危機意識がありました。また、25歳の時には「中国鉱産誌」を共同執筆しています。ここでは、当時の日本の地質学会をリードしてきた人々たちによる調査結果を取り入れて執筆しています。魯迅は、このあと医学を学び、さらに文学者、思想家・啓蒙家となっていきました。

第6章：大岡昇平の作品と地質学

大岡は地質学を学んだ経験はないようですが、作品には地質や地形に関する記述が随所に出てきます。彼はフィリピンのレイテ島で捕虜生活を送った経験から、「俘虜記」、「レイテ戦記」、「野火」などの作品を残しています。それに関連して、蟹澤氏はフィリピンの地質について解説しています。また、大岡の「武蔵野夫人」には、武蔵野台地や国分寺崖線が第四紀地質学の解説書のように記述されています。この作品を書いた頃、彼は日本地質学会に入会し、そのあと終生、会員であったそうです。大岡に大きな影響を及ぼしたフンボルトについても、紹介されています。

第7章：「ニルスのふしぎな旅」「パール・ギュント」と北欧の地質

最初に、北欧全体の地質について紹介しています。次いで、「ニルスの不思議な旅」にあわせて、蟹澤氏自身が調査したスウェーデン各地の鉱山や地質を紹介しています。次いで「パール・ギュント」のあらすじを記述した後、ノルウェーの地質や岩石学者のことを紹介しています。

第8章：地中海東部の地質とギリシア神話

本章では、ギリシアの神々の由来を詳しく解説しています。また、ギリシア神話に関わる各地の史跡や山々の歴史や地質についても、紹介しています。そのなかで、ギリシアは長い地質時代に亘るプレート沈み込みによって形成された地域なので、日本と似た景観をしていると述べています。

巻末に用語解説と地質年代表が付録としてついています。これは専門用語や地質時代を理解する上で、大変便利です。

この本は、蟹澤氏の文学に対する博識と旅を愛する心、それに岩石学者として世界各地の地質調査を行った体験と知識とが、相まって作り上げられたものです。ここで取り上げられた文学の多くは、地質学が最先端の自然科学として脚光を浴びていた時代（18世紀頃）に誕生したものです。地質学は現在でも、資源開発のみならず環境科学の根幹をなす学問として、なお健在です。多くの人たちが、文学や旅を通して現代の地質学に目を向けてくれれば、蟹澤氏の本望とする所と思われれます。また、蟹澤氏がゲーテの「イタリア紀行」を携えて海外旅行したように、この本を参照しながら、当該諸国を旅できれば、旅は一層楽しいものになると思います。

最後に、この本を購入する方法について紹介します。著者のご好意により、税込み3,150円のところ、送料込み2,520円で購入できます。購入手続きは以下の電子メールの宛先に申し込み、本と郵便振込用紙が送られてきます。本代は、その振り込み用紙で振り込んで下さい。

宛先：古今書院 関田伸雄氏 (LDY02410@nifty.com)

(玉生志郎)